



No.139 2014.12.1発行 発 行 **北海道造形教育連盟**

会長安木尚博(札幌市立札幌小学校長) 事務局長三井哲(札幌市立北白石小学校長) 事務局札幌市立北白石小学校

₹003-0086

札幌市白石区北郷6条3丁目5-2 TEL(011)871-1524·FAX(011)871-3276



第64回全道造形教育研究大会 上川・旭川大会を終えて

第64回全道造形教育研究大会 上川・旭川大会 実行委員長 佐藤 之憲

過日の全道造形教育研究大会上川・旭川大会には、上 川教育局長 小野寺一郎様をはじめとして、全道各地は もとより道外からも足を伸ばしていただいた多くの先生 方に参加をいただき、盛会のうちに開催できましたこと に厚くお礼申し上げます。

運営する側として、皆様方の熱心に授業を参観されている様子や、その後の分科会での貴重な意見を交流する場面を見させていただき、今大会にかけた思いを深めることができました。運営に当たっては、多々至らなかったこともあったことと思いますが、無事研究大会を終え、次期開催地、函館の皆さんに引き継げたものと安堵しているところです。

文科省は28年度にも学習指導要領の全面改訂を打ち出しています。図画工作科及び美術科が必修教科としての存在を評価される重要な時期に当たり、今大会はこれからの造形教育を推進する上での方向性を示す重要な大会となることを自負して臨みました。

旭川市教育研究会図工美術部会は、上川造形教育研究会と研究内容の連携を図ることで授業実践の交流や造形活動事業の共同開催などに取り組み、上川管内の造形教育を活性化させてきました。

義務教育9年間を見通した小中学校の連携を基盤としながら、幼小の接続、中高の接続も意識下に置いて、授業研究を中心とした「深める研究」と支援事業や連携事

業の「広める研究」の二つの研究を自転車の両輪に例え バランスを考え実践に当たってきました。

「深める研究」では、学習過程における児童生徒の「喜び」の姿を大切にした授業づくりを通して、育てたい力を伸ばすための題材、教材の開発、効果的な手段、個に応じた幅広い指導や支援を重視した展開を提言できたものと思います。また「広める研究」では、図画工作科、美術科の指導者として必要な資質や技能を磨いたり、専門外の教員への支援をしたりするための研究として位置づけてきました。教育大学や道立旭川美術館、彫刻美術館などの他機関との連携を図り造形活動を通して地域の活性化や社会貢献などに繋げた研究でもありました。

上川・旭川の造形活動全でを伝えたいスタッフの思いが、1日開催で授業、分科会、「造形まつり IN 全道造形」、場所を移しての道立旭川美術館での「造形活動を語る集い」盛りだくさんに詰め込んでの開催でありました。慌ただしくもありましたが、どの場面でも先生方の熱気溢れる活動に、一同感謝申し上げるところです。

最後になりますが本大会を主管するに当たり、北海道 造形教育連盟をはじめ、北海道教育委員会、旭川市教育 委員会、富良野市教育委員会、鷹栖町教育委員会等関係 機関の皆様の多大なるご理解とご協力により今大会を運 営できましたことに心より感謝を申し上げご挨拶といた します。







上川・旭川大会を振り返って ~研究大会アンケートの結果から~

上川·旭川大会

研究部長 中島 圭介 (旭川市立緑が丘中学校)

研究大会の成果と課題は、客観性を高めるため、参加された方々の意見や感想が重要であると捉え、分析するための研究大会アンケートをとらせていただきました。その結果、一般参加者の約1/4にあたる74名の参加者から回答を得ることができました。ご協力に感謝いたします。

紙面の都合上、結果の一部しかお伝えできませんが、 本大会の振り返りに活用しました。

1-①「深める」研究と「広める」研究の趣旨や意義を感じ取ることができたか?

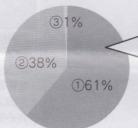
①そう思う ②だいたいそう思う

③あまりそう思わない ④そう思わない ⑤無回答

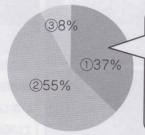


97%の参観者が、肯定的に捉えてくれています。上川の主張が理解され大変区でも「深める」研究と「広める」研究と「広める」がある」がある。されているでは、次のから活動に道の力は高されたら、北海道の力は高まります。

1 - ②授業を提供してくれた子どもたちから『喜び』の 姿を感じ取ることができたか?



2-②指導案に示された身に付けたい基礎的能力と育て たい力が明確な授業だったか?



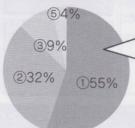
92%の参観者が、肯定的に保えるをでしています。 はんないます。 だんないます。 だんないます。 さないないます。 さないないます。 さないないます。 さないないます。 さいます。 はいます。 はいます。 はいます。 はいます。 はいます。

3-②教員の資質向上や造形教育を活性化するためには、 関係機関との連携が必要だと感じたか?



99%の参観者に、他機関との連携について賛同を得ることができた。小中連携は基より、今後の研修活動では、校内のみならず校外へも目を向け、関係機関と連携することにより、地域全体の造形活動を活性化させることが重要です。

4-④各地区サークルによる造形まつりは、チーム北海 道を意識できたか?



87%の参観者に、チーム北海道の魅力や組織力の素晴らしさに気付いてもらえました。また、各地区サークルがチーム北海道としてできる取組の1つを提案することができ、工夫・発展させることにより、チーム北海道の力や絆を強めることが大切です。

「次期、学習指導要領改訂時に、図画工作科・美術科が必修教科として存続することができるか」という危機感を研究のエネルギーに転換し、4ヶ年に渡って取り組んできた「深める」研究と「広める」研究を発表・提案させていただきました。

本大会の研究成果と課題や運営上の資料は、次期開催 地の函館に全て引き継ぎたいと思います。上手に研究内 容のリレーをつなげながら、点が線になり、線が面になって北海道全体の造形教育の底上げに結びつけていくことが重要だと感じています。

第64回全道造形教育研究大会上川・旭川大会は、お陰様で500名を超える方々にご参加いただくことができました。この大会に関わった全ての皆様に感謝いたします。ありがとうございました。

「海の世界へレッツゴー!」(年長)

授業者 阿部 清香 (旭川大学附属幼稚園) 教室の中を海の世界に!子どもたちは、 ブルーシートを生きものでいっぱいの 海にしました。



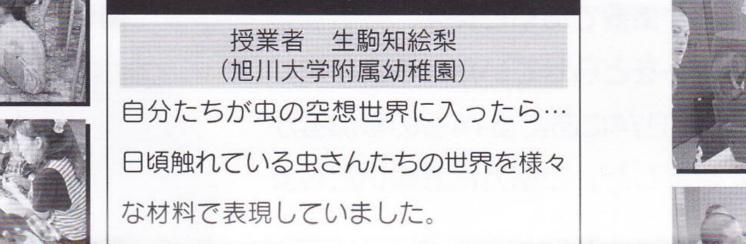






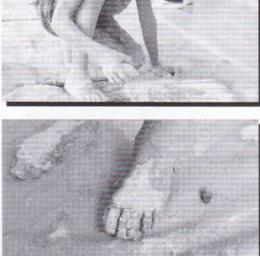


「虫の世界へレッツゴー!」(年長)

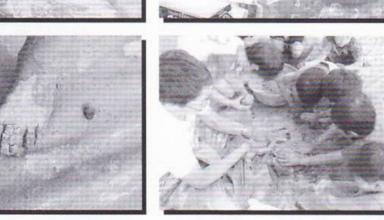


「すなや つちと なかよし / ねんどで」(小1)

授業者 小川 雄平 (旭川市立東光小学校) サラサラの土粘土が、水を加えること で大変身。手や足だけじゃなく、体じ ゅうで粘土の面白さにふれました。









「なにに なるかな」(小1)

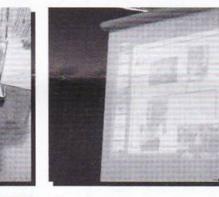
授業者 西永 円 (旭川市立末広北小学校) 教室の中が、森の中になりました。自 分たちの想像のもりのくにを真剣につ くりあげていました。



「想像美術館」(中1)

授業者 山田 幸子 (旭川市立神居中学校) iPadを使って、150枚を超える作品を 使ってグループで展覧会を構成しました。 タブレットPCではないとできない提案 型授業でした。







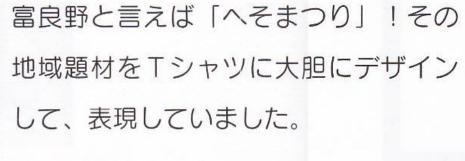
「想像のつばさを広げて」(小6)

授業者 木村 文香 (鷹栖町立北野小学校) 「春はあけぼの」から想像を膨らませ、 様々な道具を活かしながら、自分なり の季節の感じを自由に表していました。



「最高に○○な顔」(中1)

授業者 藤原 賢 (富良野市立樹海中学校)







「彫刻巡回展示出前授業 旭川の彫刻家展~具象と抽象~」(小3)

授業者 渡辺 悟史 (教育大学附属旭川小学校) 他 学芸員、教員、大学との三者連携事業 の授業でした。彫刻を前にした子ども たちから次々にあふれてくる言葉に驚 かされました。





第64回 全道造形教育研究大会 上川·旭川大会

(全道研究主題) わたしを創る~自立と共生の造形教育を目指して

研究テーマ

『「わたし」の喜び』あふれる造形活動

大会コンセプト

「明日からの図工や美術の授業をどうしよう?」



見立てて、ふれて、広げよう」 (小特別支援)



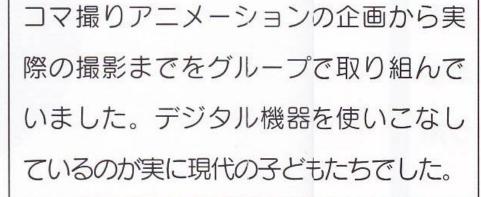
(旭川市立永山小学校) 教室を埋め尽くすペットボトルのキラ キラした輝きに魅せられた子どもたちが、 アイデアを膨らませ、楽しみながら表





「コマ撮りアニメーション」(高校)

授業者 板谷 諭使 (北海道旭川北高等学校)

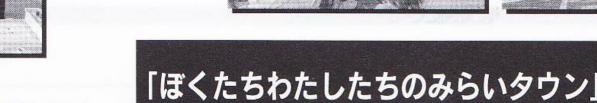


現していました。



「あったらいいなこんなすいぞくかん」

授業者 井手 愛 (旭川くりの木幼稚園) 見たことのない川や海を想像して、自 分たちだけの想像の生きものや世界を 創り上げていました。子どもたちのい きいきした顔が印象的でした。



授業者 川森 恵未 (旭川くりの木幼稚園) 自分たちの街にあったらいいなと思う ものを、自由に表現していました。ど んどん膨らんでいくイメージが展開し ている姿が見られました。

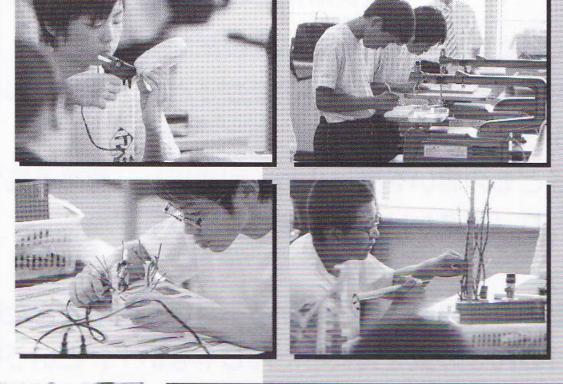


「だいじな宝箱」

授業者 澤田 克之 (旭川市立東明中学校) 自分にとって大事な宝箱ってどんなも のなんだろう?と考えながら、形や色 などを工夫して表現していました。

「自然からイメージを広げよう」

授業者 桑村美由紀 (教育大学附属旭川中学校) たくさん準備された自然素材を組み合 わせることによって生まれてくる形の 面白さに気づきながら、新たな形を生 み出していました。



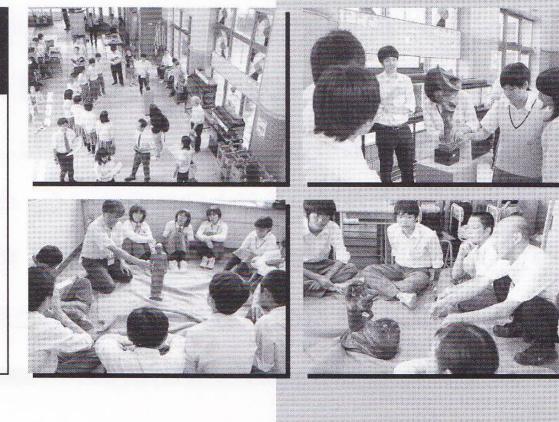


「アートレポーターになって」

授業者 栗林 友恵 (旭川市立神居東小学校) アートカードを用いた鑑賞授業で、子 どもたちのいきいきした取り組みに参 加者も驚かされていました。

「彫刻巡回展示出前授業 旭川の彫刻家展~具象と抽象~」

授業者 川原 潤 (旭川市立永山中学校) 他 三者連携事業の授業の中学生版です。 最初は、おずおずとしかし彫刻に触れ ていくことで、次第に引き込まれてし く姿が印象的でした。





大会参加者の声り

第64回 全道造形教育研究大会 上川·旭川大会

「ステキな実践」から感じたこと

雨竜町立雨竜小学校 遠藤 孝之

研究会当日は、幼小中高と様々な授業実践を一度に参観することができ、大変有意義だった。

特に6年生の「想像のつばさを広げて」では、題材のねらいにある「国語科との合科的な造形活動」を目指したというところや、「枕草子に千年前の四季の特徴があり情景をイメージしやすい」ことから「日本の文化の美しさ」を感じ取らせたかったという部分に大変共感が持てた。

たくさんの授業実践がある中で、旭川の地域産業である木工を扱うものが少なかったのは残念だった。身近な地域素材として地元の産業やそれに携わる方たちを授業の中で扱うことで、子どもたちが自分の故郷について知り、これからの自分の生き方について考える場を与えることも、図工・美術教育の大切な役目の一つではないかと感じた。

「虫の世界にレッツゴー!」をみて

札幌市立北都小学校 矢野 宣利

特に「ピカイチ!」と感じた授業だった。

- ・材料と表現場所の環境設定が子どもの「わくわく感」を引き出していた。
- ・子どもの思いを受け止め、引き出し、認める先生のかか わり(言葉かけ)が丁寧でよかった。

活動の最後のほうに、窓からチョウが入ってきた時の子どもの「みんなの虫を見にきたんじゃない!」という嬉しそうな声。そして、チョウがいなくなった後に、自然と自分の表現に戻っていた子どもの姿がステキでした。

「想像のつばさを広げて」をみて

札幌市立稲積小学校 三浦 真奈美 枕草子を読んで四季の情景を想像し、モダンテクニックを 用いてかく授業であった。既習のモダンテクニックを黒板に 掲示していた点や、机ごとに使用する道具や画材が整理され ていた点、前時でかいたワークシートが見やすく掲示されて いた点など、環境の素晴らしさが光る授業であった。 大切な のはモダンテクニックを用いること自体ではなく、学んだモダンテクニックを「こんな場面で」「こんな風に」用いたい という欲求をひきだすことなのではないだろうか、と感じた。

「旭川の彫刻家展(鑑賞)」をみて

札幌市立豊明高等養護学校 八子 正人

4つのグループに分かれて、自由に生徒たちと意見交換する授業でした。「山内 壮夫の婦人立像」を生徒たちがたたくとカンカン、すると他の生徒が「おおー!」と感嘆の声。プロンズに触れて「くっせー」という素材の臭いを感じる声。授業のねらいを十分に生徒たちは感じていました。分科会でも、大学の先生、美術館の皆さんの熱意を感じました。さずが彫刻の旭川でした。

『彫刻巡回展示出前授業 旭川の彫刻家展(鑑)~具象と抽象~』をみて

增毛町立増毛小学校 河端 寿幸

実物を通しての鑑賞指導。各機関が連携した今回の目玉の授業だと感じ参観させていただきました。

子どもたち一人一人のつぶやきを大切に拾いながら、どん どん想像の世界が膨らんでいき、鑑賞を通して「喜び」があ ふれていく様子が見られました。

また、見るだけではなく、触ったたり、嗅覚を働かせたりと鑑賞指導のポイントも学ばせていただきました。ありがとうございました。

「想像美術館」をみて

札幌市立西園小学校 余川 理子

150点の作品から10作品を「選び」「並べる」というシンプルな活動であるのに、子どもたちは対話をしながら次々と変容見せ、ねらいへと導かれていった。そのヒミツがPad。フリックで次々に作品を見比べ、ピンチアウトで見たい箇所を拡大。並べる作業では、会場見取り図(架空)に観覧客に見せたい順を想定して、作品をドラッグして配置。それはまさに「想像美術館」。使い方の指導に時間が取られるという指摘もあったが、活用する価値は大きいと感じた。

第65回全道造形教育研究大会【函館·渡島大会】

○大会テーマ・研究主題

「夢・つくる・人 ~未来はぐくむ造形教育~」

□開催期日 平成27年7月29日 (水)

□会 場 函館市立弥生小学校

函館市弥生町4番16号

□日 程

	公開授業I							
受	(幼・中)	移	開会式全体会	=# :0	昼	分科会	移	地区交流
付	公開授業 II (小)	動	概要説明	講演	食	研究協議	動	·閉会式

□内 容

◆5つの視座から造形教育を見つめます。

- 1「私たち、北海道のクリエイター」 としての造形教育
 - ・北海道はひとつの地域、チームとして、造形教育をとらえよう。
 - ・北海道的な特色ある造形活動 (四季 地理 歴史など) の実践・交流を行おう。
- 2 夢つくる「北の2つのクリエイター」としての造形教育
 - ・「夢つくる人(子ども)」~ 自分の夢をたずさえ、将来へはばたく人
 - ・「夢つくる人(教師)」~ 子どもたちの夢を広げ、将来をはぐくむ人
- 3 「夢・思い」を「とらえる・みつめあう・つなぐ・つむぐ・育む・実現する…」造形教育
- 4 思考と活動の上に成り立つ造形教育

(想像する力 構想する力 創造する力 表現する力 鑑賞する力 感性・個性などを育む)

5 社会・地域に生きる子どもたち 未来に生きる子どもたち 子どもたちとともに深め合う造形 教育

◆3つの研究実践のポイント

素直な造形~子どもの気持ち 育む造形~学びの気持ち ひろがる造形~つながる気持ち ○子どもの夢の多面的な発想・ ○授業づくりを研修・研鑽しよ ○地域や人、他分野とのつなが 構想・創造を語ろう う りを考えよう ・子どもの気持ち、夢にそった ・教師の学びと授業づくりを軸 ・北海道のネットワーク、地域 造形教育とは、どのようなも として、教科書題材や教材開 の人々や社会との出会い、他 のかを発想・構想・表現・鑑 分野とのコラボレーションな 発などの実践上の課題や工夫、 賞などから多面的に考える。 目標の実現状況を捉える評価 ど、ひろがり・つながりの造 や指導方法等、授業力の高め 形を考える。 方などについて考える。

- ◆公開授業予定 幼稚園 1 小学校 2 中学校 2 (アートプロジェクト 1)
- ◆提言予定 函館・渡島より 5

そのほか全道よりいくつか提言や各地区からのご支援・ご協力をお願いしたいと考えています。

- ※分科会は、以上をもとに構成していく予定です。
- ※函館市および渡島美術教育研究会では、全道の皆さんと共に、**夢、未来、自分への扉を開く鍵となる造形教育研究大会**にしていきたいと考えています。どうぞよろしくお願いいたします。

渡島美術教育研究会では、「感性と知性の出会い 心うるおす造形教育を求めて」をテーマに活動を進めています。主な活動は、道立函館美術館での鑑賞会、渡島教育研究集会での研究授業、そして、渡島児童生徒美術展の開催の3つです。また、会員の資質向上のために実技講習会も実施しています。なかでも今年度で第16回を迎える渡島児童生徒美術展は、例年多数(昨年度は約700点)の作品が集まり、貴重な作品交流の場となっています。



来年度は函館市で全道造形教育研究大会が開催されますが、そのために函館市美術教育研究会と協力しながら準備をすすめている段階です。人数が少ないため大きなことはできませんが、大会が成功を収められるよう力を尽くしたいと思っています。

【主な活動内容】

5月 総会

美術鑑賞会

8月 合同学習会

11月 渡島教育研究集会

2月 渡島児童生徒美術展 実技講習会



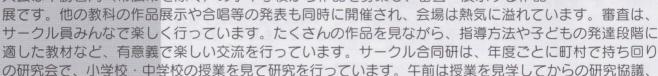


十勝造形 サークル

浦幌町立浦幌中学校 小泉 佳一

十勝造形サークルは、昭和27年発足の歴史のあるサークルです。全盛期は40十名を超える会員がいましたが、今年度は中学校6名小学校20名の計26名で活動しています。以前はデッサン会などを開催して会員の交流する機会がたくさんありましたが、会員数の減少とともに交流の機会も少なくなってきています。

主な活動は、十勝子ども大会と十勝管内教育研究サークル合同研究会です。子ども大会は十勝管内(帯広市を除く)の小中学校から作品を募集し、審査・展示する作品



午後からは各自、自校生徒の作品を持ち寄り、教材・教具や指導方法の交流を中心に研修を行っています。

その他、十勝研修センターが 開催する研修講座への講師の派 遣や、外部団体からの審査員要 請に応えるなどしています。







朝・夕の寒さも厳しくなり、雪のたよりも聞こえる季節となりました。北海道としては第二の観光シーズン。雪での苦労もありますが、それ以上に「楽しさ」もいっぱい待ち構えています。さて、上川・旭川大会が盛大に開催されました。皆さんも足を運んでいただき、まことにありがとうございます。ここでの成果をつなげ、伝承していくことが我々の使命です。『楽しさ』の裏には見えない力がたくさん隠されています。この連盟報が、それを汲んで、感じて、より良いものへとつないでいける橋渡し役となればと願っています。

最後に、連盟報発行にあたり、原稿執筆にご協力いただいた方々に感謝申し上げます。 <北海道造形教育連盟 広報部> 小 林 知 広・櫻 田 悟・松 本 和 彦